



インターナショナルオフィス長就任のご挨拶

副学長・インターナショナルオフィス長 原 直行



10月1日より新しくインターナショナルオフィス長に就任しました原直行です。前任の徳田雅明先生が6年間にわたり、本学の国際戦略、グローバル環境整備に尽力され、多くの実績を残されました。その後任はかなりの重圧ですが、インターナショナルオフィスの教職員の皆様と力を合わせて、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

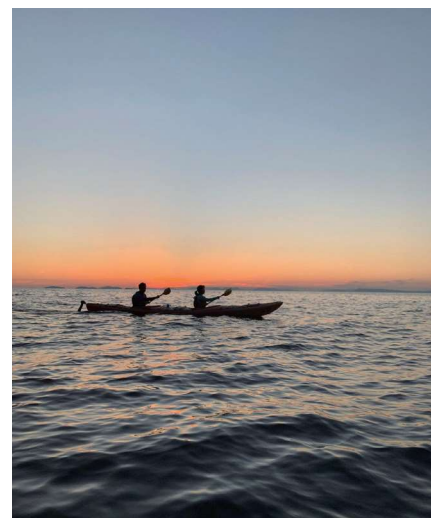
先ずは自己紹介から。私は現在、経済学部の教員でもあります。専門は観光と地域活性化で、これまで香



川県を主なフィールドとして研究を重ねてきました。コロナで世界的に観光業は大打撃を受けていますが、今は新しい観光として注目されている「ワーケーション」の研究をしています。ワーケーションとは、WorkとVacationを組合せた造語で、テレワーク等を活用し職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うことを指し、コロナ流行以降、急速に注目されるようになりました。ワーケーションを瀬戸内海の各地で実施できたらと、地域の観光関係者と協議を重ねています。また、瀬戸内海の環境保全も現在取り組んでいるもう1つの研究テーマです。写真は瀬戸内海での夕暮れ時のシーカヤックの風景(信じられないくらい美しいです!)

と、瀬戸内海の真ん中であって干潮時には人が立てるほどの浅さになるアマモ場で撮ったものです。(この時は本学瀬戸内圏研究センターの調査に同行させていただきました!) 今後はこれらの自分の研究や地域と築いてきた関係をグローバルと結びつけていきます。

次にインターナショナルオフィスについて。2021年度は第3期中期目標・中期計画の6年目、最後の年度になります。これまで香川大学ではインターナショナルオフィスが中心になって、4&1(400人の留学生受け入れと100人の3カ月以上の海外派遣)に取り組んできました。その結果、順調に数字を伸ばしてきたのですが、2020年からのコロナの影響で、留学生の受け入れは極めて制限され、海外への派遣は実質できない状況になってしまいました。それでもオンラインを利用した留学やそれに代替する授業の受講や海外との交流を様々な展開しています。今後もニューノーマルでの留学等に積極的に取り組んでいきます。オンラインと言えば、今年8月・9月には大学間コンソーシアムを形成した協定校(タイ・チェンマイ大学と台湾・国立嘉義大学)と国際シンポジウム「1st Trilateral Symposium on SDGs」をオンラインで開催しました。さらに、10月にはEJEA(Europe Japan Expert Association)の国際カンファレンスをオンラインで開催しました。どちらも大変盛況で、成功裏に収めることができました。関係者の皆様には改めて御礼申し上げます。



最後に、来年度から新たに第4期中期目標・中期計画が始まります。インターナショナルオフィスでは第3期の成果を引き継ぎつつ、新たな取組も積極的に行っていきます。ですが、今号では紙数も尽きましたので、その内容については次号で紹介したいと思います。

<国際シンポジウム・国際カンファレンスの開催>

The 1st Trilateral Symposium on SDGs

○第1回香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学合同シンポジウムを開催

2021年8月31日(火)～9月22日(水)にわたり、第1回香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学合同シンポジウムをオンライン開催しました。2大学間で実施してきたシンポジウムとワークショップを合体し発展させようとの合意に基づいたものです。SDGsを共同の課題とし、“Trilateral Symposium on SDGs”という名称としました。

全体セッションでは、3大学長間で“Memorandum of Cooperation”が締結され、3大学の連携強化と、3大学が順番にシンポジウムを開催することを約束しました。また、3大学のSDGsに関連する研究紹介の動画が流され、国際交流担当及び研究担当の副学長を中心に活発な議論がなされました。本シンポジウムを契機として、若手研究者を中心に継続的な共同研究の発展を期しました。

サテライトセッションは、4つの分野に分かれ、8月31日「Sustainability & Food Session」、9月1日「Sustainability & Technology Session」、9月2日「Sustainability & Society Session」及び9月6日「Sustainability & Health Session」が行われました。共同研究の芽が幾つか生まれています。

学生セッションは、9月1日、8日、22日の3日で実施し、各大学から16～25名の学生が参加し、5グループに分かれ、SDGsのテーマでグループディスカッションやプレゼンテーションを行いました。

全体を通じて400名を超える教職員、学生が参加して交流を進めました。2022年には、香川大学で第2回シンポジウムを対面で開催することを決めました。

3大学間の合同シンポジウム・ワークショップの変遷			
	香川大学・チェンマイ大学 合同シンポジウム	香川大学・国立嘉義大学 合同ワークショップ	香川大学・チェンマイ大学・ 国立嘉義大学合同シンポジウム
2007	第1回(チェンマイ)		
2008	第2回(香川)		
2009			
2010	第3回(チェンマイ)		
2011			
2012	第4回(香川)	第1回(嘉義)	
2013		第2回(香川)	
2014	第5回(チェンマイ)	第3回(嘉義)	
2015		第4回(香川)	
2016	第6回(香川)	第5回(嘉義)	
2017		第6回(香川)	
2018	第7回(チェンマイ)		
2019		第7回(嘉義)	
2020	第8回(香川) 延期		
2021	第8回(香川)	第8回(香川)	第1回(香川) online 第2回(香川)
2022			



3大学協定の締結



ディスカッションセッションの様子

●Sustainability & Foodセッション実施報告

このセッションは、8月31日の14:00(日本時間)でオンライン(ZOOM)で開催されました。ホストは香川大学川村教授が務め、セッションの司会はルーツ准教授が行いました。コーディネーターはチェンマイ大学はYuthana Phimolsiripol准教授、嘉義大学はChien-Jui Huang准教授、香川大学は川村が行い、発表者の人選や様々な調整を行いました。参加人数は、63名(内学生は14名)で内訳は、チェンマイ大学が30名(内学生は2名)、嘉義大学は9名(内学生は4名)、香川大学が24名(内学生は8名)でした。各大学から3名ずつ合計9名の主に若手の研究者が15分間の発表を行い、5分間の質疑応答を行いました。全ての発表に関して質問やコメントがあり概ね活発に研究交流がなれたと考えられます。このSessionでの交流を切っ掛けに農学部の松本由樹准教授とKONG Lingbing助教が令和3年度国際共同研究等援助事業に採択されました。今後の国際共同研究の活発化が期待されます。(農学部 川村理)

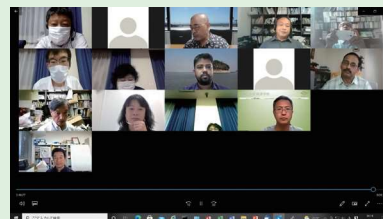
●Sustainability & Technologyセッション実施報告

9月1日(10:00-12:25)に開催した「持続可能性と技術セッション」では、創造工学部の須崎嘉文教授、宮川勇人准教授、

大学院生1名、学部生1名、国立嘉義大学理工学部の蘇炯武 (Chiung-Wu Su) 教授、大学院生2名、チェンマイ大学農学部のKorawan Sringarm博士と農業産業学部のKittisak Jantanasakulwong博士が発表を行いました。香川大学と国立嘉義大学の発表内容は、材料科学に関する研究成果であり、基礎研究とそれらの応用技術が、幅広い意味での環境と持続可能な開発に必要であることについて議論がなされました。また、Su教授は香川大学と国立嘉義大学とのこれまでの交流の歴史についても紹介しました。また、Jantanasakulwong博士は、「バイオプラスチック技術の持続可能性」に関して発表を行いました。この研究は、工学技術をより広い分野に応用した一例であり、新たな協力関係の方向性と研究テーマについて考えることができました。このような幅広いテーマに関して、3大学の今後の補完的な共同研究につながる情報交換がなされました。また、本セッションでは、学生の交流も行われ、研究活動だけでなく、学生交流の重要性も共有しました。3大学は工学や技術に関して共通する学部・学科・研究所を有していることから、創造工学部の国際交流委員会および両大学の特別委員を中心として、組織的かつ個別研究テーマに関係して、今後、関係の強化を進めていくきっかけとなる大変有意義なセッションとなりました。(創造工学部 石塚正秀)

● Sustainability & Societyセッション実施報告

Sustainability & Societyセッションは、台湾国立嘉義大学のDr. Kuo-hung Huang教授、チェンマイ大学Dr. Pornchai Wisuttisak 准教授、香川大学高木由美子がセッションオーガナイザーを務め、令和3年9月2日(木) 14:00~17:30(日本時間)に開催されました。本セッションは今回初めて香川大学教育学部、法学部、経済学部合同で開催され、前半は、各地域大学の紹介や交流担当者の研究紹介、後半は、香川大学寺尾徹教授のオーガナイズ、平篤志教授の司会の元、香川大学教育学部が注力している南アジアの協定大学から他の研究者を招待した特別セッションを開催し、前半後半合わせてSDGsの多様でありながら共通の側面の情報共有を行いました。

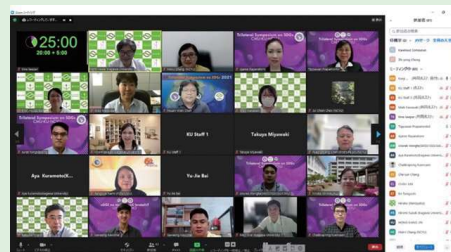


セッションは香川大学教育学部国際交流委員長の櫻井佳樹教授によるご挨拶から始まり、先の3大学に加えて、インド: Gauhachi大学、North Eastern Hill大学、バングラデシュ: Janagirnagar 大学の6大学、合計20講演が行われました。在籍学部や、研究の切り口はさまざまありますが、従来の交流のさらなる深化、新たな視点、それぞれの地域の特徴や独自のフィールドを活用した研究交流、学生交流の展開が期待される意義深いセッションとなりました。抄録の作成、今後の研究交流の継続を確認して散会となりました。

最後になりましたが、本セッションの開催に関して関係の教職員の皆様から多大なご助力をいただきました。深く御礼申し上げます。(教育学部 高木由美子)

● Sustainability & Healthセッション実施報告

Sustainability & Healthセッションは、チェンマイ大学健康科学研究所のDr. Tippawan Prapamontol、および国立嘉義大学生命科学部のProf. Hsin-I Chang、香川大学医学部衛生学講座の鈴木、および国際交流委員会委員長の和田がオーガナイザーを務め、令和3年9月6日(月) 15:00~18:05(日本時間)に常時約70名の参加者を得て、開催されました。

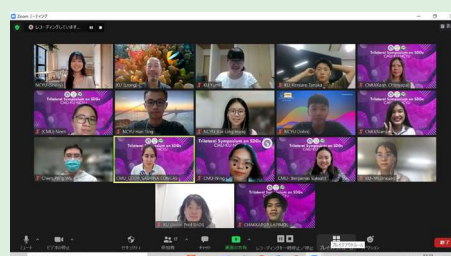


セッションは国立嘉義大学生命科学部のRuey-Shyang Chen学部長によるご挨拶およびオーガナイザーの自己紹介から始まり、各大学から2名、計6名の新進気鋭の講師による招待講演が、3時間弱に渡って行われました。今回は研究成果の情報を交換するだけでなく、国際共同研究を展開するきっかけとなる場として生かしていただくことを趣旨としており、香川大学医学部からは看護学科地域看護学の芳我ちより教授と医学科病理病態・生体防御医学講座の松田陽子教授が講演を行いました。いずれの講演も極めて興味深く、特に質疑応答では、成果をどのようにアジアおよび世界に展開していくのかに焦点を絞った討論が行われました。こうした論議を通じて近い将来の共同研究の「芽」を見出した方も多かったのではないかと思います。

最後に来年の第2回シンポジウムでは対面での再会を約束して、散会となりました。本セッションの実施をご支援、ご指導いただきました皆様に、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。(医学部 和田健司、鈴木裕美)

● 学生セッションの実施報告

学生セッションに参加者は85名でした。5つのチームに分けて、各チームで1名のリーダーと3名のサブリーダーを選出し、加えて3大学からの教職員がスーパーバイザーとコーディネーターを務めました。セッションは、3回分けて実施しました。第1回はセッションの全体の説明をした後、5つのルームで各チームによる自己紹介やSDGsの発表テーマを決めました。第2回は、発表の準備の詳細や役割分担をしました。最終の第3回は、5つのチームによる発表やQ&Aを行いました。後日、学生たちにアンケート調査に回答してもらい、個人レポートも提出してもらいました。



(インターナショナルオフィス ロン・リム)

EJEA Conference 2021 in Kagawa

○香川大学がホストとして

EJEA Conference 2021 in Kagawaを開催

<https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/circ/event/ejeaconf/>

香川大学がホストとなり、欧州側のEJEA（後述）を含む3組織と共同主催して、EJEA Conference 2021 in Kagawaを、2021年10月22日（金）～24日（日）を会期として日本で初めて開催しました。『International Conference on Human-centered Sustainability and Innovation for an AI-assisted Future: New Interdisciplinary Education & Research for the Next Stages in Japan and Europe (AI が支援する未来に向けた人間中心のサステナビリティとイノベーションを考える: 新たなステージへ導く日本とヨーロッパの学際的な教育と研究の紹介)』をテーマに、医療・都市・先端工業・環境・防災・農業・教育など幅広い分野で、Artificial Intelligence (人工知能: AI) を「人間中心」に有効活用した技術革新等を議論しました。EJEAからは"Human-centered", "Innovation", "AI-assisted Future"などのキーワードが提案され、本学からも"SDGs", "Interdisciplinary Education & Research"などを提案しました。

当初対面での開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となり、参加費も無料としました。ポスターセッションも実施し、対面・オンライン併設で、高次連携にも踏み込んだ内容となりました。また、GRANITE（後述）の関係から信州大学へ参画を勧誘、アジアからの参加を勧誘するなどの新機軸を多く打ち出しました。

プログラムに示す通り、タイトルに相応しい内容で、日本を含む13か国から197名の参加者を得て、80演題（キーンノートレクチャー 7、招待講演1、8のワークショップでの口頭発表60、ポスター発表12）があり、予測を上回る成果をあげることができました。また支援機関数も13機関と過去のEJEA会議と比較して最多となりました。



EJEA Conference 2021 in Kagawaプログラム

10月22日（金）		10月23日（土）		10月24日（日）	
		11:30 - 14:30	ポスターセッション（対面） 多目的ホール（オリープスクエア）		
15:00-15:30	開会式 Mr. Hirai Takuya Mr. Onishi Hideto Prof. Dr. Kakehi Yoshiyuki Dr. Julia Münch Prof. Dr. Dietrich Albert	15:00-15:15	オープニング Dr. Lars Vargó	15:00-15:15	オープニング Dr. René Reiners
15:30-15:35	カンファレンス進行説明	15:15-15:35	キーンノートレクチャー 3 Prof. Dr. Satoshi Murayama	15:15-15:35	キーンノートレクチャー 5 Prof. Dr. Hiroshi Tsuji
15:35-15:55	キーンノートレクチャー 1 Dr. Yuko Harayama	15:35-15:55	キーンノートレクチャー 4 Dr. Lucas Paletta	15:35-15:55	キーンノートレクチャー 6 Dr. René Reiners
15:55-16:15	キーンノートレクチャー 2 Prof. Dr. Fredrik Heintz	15:55-16:15	招待講演 Dr. Philippe de Taxis du Poët	15:55-16:15	キーンノートレクチャー 7 Mr. Colin de Kwant
16:15-16:30	ポスターセッション（オンライン）	16:15-16:30	ポスターセッション（オンライン）	16:15-16:30	ポスターセッション（オンライン）
16:30-19:00	Workshop 1: eHealth and Medical Engineering Workshop 2: Smart City	16:30-19:00	Workshop 3: Innovative Technologies for New Industry Creation Workshop 4: Environmental Humanities: Water, Air and Land for Sustainable Living Spaces Workshop 5: Distributed Cognition in Learning and Behavioral Change – Based on Human and Artificial Intelligence	16:30-19:00	Workshop 6: GRANITE - Human-Centered Research and Transfer to Application Workshop 7: Human Security and Sustainability Workshop 8: Educational Change: New Models and New Thinking in Intercultural Concepts
19:00-19:15	ポスターセッション（オンライン）	19:00-19:15	ポスターセッション（オンライン）	19:00-19:15	ポスターセッション（オンライン）
19:15-19:45	まとめ "What I learned today"	19:15-19:45	まとめ "What I learned today"	19:15-19:45	まとめ "What I learned today"
19:45-20:00	閉会 Dr. Phoebe Stella Holdgrün	19:45-20:00	閉会 Prof. Dr. Takahiro Shinyo	19:45-20:00	閉会式・ポスター賞発表 Prof. Dr. Wada Kenji Prof. Dr. Tokuda Masaaki Ms. Sabine Ganter-Richter

EJEAとは

EJEA - European Japan Experts Association (<https://ejea.eu/>) は1995年に設立以来26年を経る。中心メンバーのDr. Dietrich Albert (オーストリア)、Dr. Anders Törnvall, Dr. Lars Vargö (共にスウェーデン) が2016年にMs. Sabine Ganter-Richterに要請しEJEAのネットワークと活動の拡大のため、日欧間の基盤を提供し、持続可能で学際的なネットワークを確立する活動を強化した。この度は日独友好160周年を記念し、日本で初めて香川大学がEJEA国際会議を開催した。

GRANITEと香川大学とEJEA

GRANITE (German Research Ambassadors Network for Industrial Technology Endeavors) は、日本の産業と連携を目指しFraunhofer研究機構(独)が2018年に開始したドイツ連邦教育研究省のプロジェクトで、香川大学、信州大学等が参加する。Sabine氏が橋渡し役となり香川日独協会の助力も得て、2019年10月にはDr. René Reiners (Fraunhofer FIT) 等数名が来学し、創造工学部でネットワーキングイベントを実施。2021年3月にはFraunhofer FITと本学が協定を締結。EJEA国際会議では、香川大学とGRANITEの融合的進展を目指した。

世界からの参加者とともに始まった開会式



唯一対面で行ったポスターセッション風景



<国際交流活性化の推進>

グローバル・カフェのWorkshop及びイベント

○グローバル・カフェの開室

昨年度からグローバル・カフェの開室を望む学生が多く、学生たちの要望に応えるため、2021年7月5日(月)に約1年ぶりにグローバル・カフェを開室しました。新型コロナウイルス感染症対策として、利用人数の制限(学生18名、教職員2名の計20名)、利用学生名簿の管理、ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用、換気等のルールを徹底しています。



○グローバル・カフェ 2021年度前期授業

2021年5月6日(木)~2021年7月16日(金)の期間、グローバル・カフェで英語や他言語の授業を16クラス開講しました。今年度から、模擬国連Model United Nationsへの参加を目指すことを活動の柱の一つに据え、Preparation for United NationsやSDGsをテーマとしたクラスを新しく設けました。前期は合計73名の学生名が授業登録しました。

その他、毎週火曜日のお昼休みに留学生・日本人学生が交代でプレゼンテーションを行うインターナショナルランチをオンラインで計10回実施しました。留学相談には合計で25名の学生から申込みがありました。

Global Café Spring Semester (May 6 ~ July 16)

Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
10:30-11:30		Study Abroad Consultation (Y Uemura) Skill-up English S&L (B Okauchi)		Skill-up English R&W (B Okauchi)	
12:10-12:50	IELTS(Speaking) (J.Hankins)	International Lunch	Learn English with Movies (Chew Hui Yan) Preparation for Model United Nations (A Caldwell)	Let's Debate (A Caldwell) Intensive English I (G McCrohan)	
13:10-14:10	Intensive English I 13:00-14:30 (J Willey)			Globalization of higher education sector 13:00-14:30 (L Lam)	Photos/Videos Sharing Session (Chew Hui Yan)
14:50-15:50		Pronunciation Skills (A Caldwell)	International Pop Culture (G Perkins)	Chinese (Kuo Yu Chien)	IELTS(Speaking) (J.Hankins) Up to 4p.m.
16:30-17:30	Global Citizen (A Caldwell)	English Mix (A Caldwell)	Study Abroad 16:20-17:50 (Y Uemura)	Destination: English (S Khalifa)	French(Beginners) (S Khalifa)
18:00-19:00				Spanish Class (G Garcia Fernandez)	

■ 全学共通クラス/Normal Classes for KU
■ 留学生によるクラス/Classes held by International Students

○オーストラリアイベント

2021年6月17日(木) 18:00~19:00にオンライン開催しました。本イベントはオーストラリアの多様な文化の理解と、オーストラリアへのオンラインまたはオンサイトの留学の促進を目的とし、協定校である西オーストラリア大学にもご協力いただきました。日本人学生10名、教職員8名の計18名が参加し、オーストラリアの先住民アボリジナルの文化やアートを中心に、オーストラリアの事物やオーストラリア英語などについて、クイズを交えながら理解を深めました。



クイズに答えている様子

○ハワイイベント

2021年7月7日(水) 18:00~19:00にオンライン開催しました。日本人学生6名、留学生2名のほか、教職員5名の計13名が参加しました。日本の文化がハワイの衣食住に与えた影響を理解し、日本とハワイの深い繋がりについて学びました。なぜハワイには日系人が多いのか、アロハシャツと着物の関係性、伝統的なハワイ料理とされているロコモコが実は日本の三色丼から発想を得たものであること、盆踊りがボンダンスとしてハワイに根付いていることなどを紹介しました。



○バーチャル・グローバル・カフェ

7月21日(水)13:00~14:00に、グローバル・カフェの学生組織であるGCSC(Global Café Student Committee)が企画・運営したバーチャル・グローバル・カフェをオンライン開催しました。教育学部、経済学部、農学部、創造工学部など様々な部局から、日本人学生7名、留学生7名、香川大学に留学予定の学生2名のほか、教職員5名が参加しました。日本語・英語両方で行われ、3~4名のグループに分かれて、10分毎にグループを変えながら、食べ物、趣味、旅行、フリートークと4つのテーマについて話し合いました。



○OK英語クラス

グローバル・カフェでの学生主体の活動として、法学部4年生の学生が、英語が苦手な学生たちとのピアラーニング型英語学習クラス「OK英語クラス」を企画・実施しました。

5月10日(月)~7月2日(金)まで8週間の集中開講とし、学生が参加しやすい時間帯に合わせ、朝の部7時30分~8時30分と夜の部19時~21時の2回に分けて実施しました。朝の部は「只管朗読(しかんろうどく)」として、内容が理解できる英文をひたすら繰り返し声に出すトレーニングを、夜の部はNHKラジオ英会話やTOEIC対策などを行いました。その他、英語での気楽な雑談も取り入れました。当勉強会には、23名からの申し込みがあり、最終的に8名ほどが参加しました。

参加した学生からは、「英語を好きになることができた」「勉強方法がわかるようになった」と好評価でした。

<日本人留学生増加のための取り組み>

オンライン留学プログラムの紹介、実施報告

○西オーストラリア大学オンライン夏季英語研修

コロナはまだ終息していませんので、香川大学の協定校である西オーストラリア大学英語教育センター(UWA CELT)の英語研修は今年の夏(2021年8月16日~9月17日)もオンラインで実施され、3名の学生(法学部1名、経済学部2名)が受講しました。

月曜から金曜の午前中4時間、5週間にわたって英語の文法、読解、聴解、スピーキングスキルを学ぶプログラムですが、現地で学ぶ各国からの学生との交流時間も設けられました。

UWA CELTの担当者とオンラインでミーティングを持ち、受講者からのフィードバックについて等、情報や意見を率直に交換して進めました。UWA CELTの担当者から、3人の受講者は真面目に授業に参加してよくがんばっていたとのこと。3人からの問い合わせや欠席通知などのメールが、どれも非常に丁寧なメールだったという褒め言葉もありました。一方、受講者の満足度は非常に高く、「オンライン留学も価値がある」、「英語学習へのモチベーション、留学への興味が高まった」という評価がありました。



○ブルネイ・ダルサラーム大学オンライン夏季英語研修

コロナの状況を鑑みて、香川大学の協定校であるブルネイ・ダルサラーム大学(UBD)は夏季(8月30日~9月9日、共計24時間)英語研修プログラムを初めてオンラインで開催され、3人の学生(医学部2名、経済学研究科1名)が受講しました。

英語プレゼンテーションスキルを伸ばすことを中心に、ブルネイの文化、経済、言語などの講義も含まれたプログラムです。UBDのメンバーとの交流会もありました。受講者は「英語の発表方法を学び、自分に自信をつけることができた」、「表現力の向上」というフィードバックがありました。

○ブルネイ・ダルサラーム大学オンライン夏季文化研修

ブルネイ・ダルサラーム大学(UBD)も一つの夏季オンラインプログラムはブルネイの文化、言語、歴史、生物多様性について英語で学ぶコースです。プログラムの実施期間は9月20日~9月28日で、共計18時間です。3人の学生(農学部2名、創造工学部1名)が受講しました。



英語で授業を実施しましたので、受講生は「自分ももっと英語を鍛えなくてはいけないということが分かった」、「リスニングとスピーキングに重点を置きながら実践的に自分の英語力を挙げていくことに努めていきたい」という感想がありました。

<リクルーティング>

留学生対象進学説明会

インターナショナルオフィスは、留学生のリクルーティング活動および広報活動として、主に日本語学校の在学学生を対象とした進学説明会に参加しています。説明会にはJASSO主催の大規模なもの以外に民間企業主催のものもあり、イベント会場や日本語学校の校内を会場として実施されています。今年度は、JASSO主催のものはオンライン実施となっており、民間主催のものについては、会場で対面実施されたものも含め、本学は全てオンラインで参加しました。

最終的には、表に示した通り例年並みの回数の説明会に参加しましたが、高松会場での実施はありませんでした。昨年同様、コロナウイルス感染症の影響で特定の時期に集中して実施され、開催時期が複数回変更されたものもありました。総合的に見れば例年と遜色なく実施されたと言えるでしょう。

日程	曜日	時間	開催都市	場所
6月19日	土	15:00-17:00	大阪	CIVI研修センター新大阪東本学はオンライン
7月15日	木	10:30-12:45	奈良	奈良産業会館本学はオンライン
7月26日	月	10:00-12:30	岡山	岡山ビジネスカレッジ本学はオンライン
8月2日	月	10:30-12:30	岡山	倉敷市民会館本学はオンライン
8月26日	木	13:20-16:00	大阪	大阪YMCA国際専門学校本学はオンライン
8月27日	金	15:00-17:30	広島	広島オフィスセンター本学はオンライン
9月6日	月	10:30-15:30	岡山	オンライン
9月15日	水	10:00-16:00 ※14:00まで	大阪	梅田スカイビル本学はオンライン
9月26日	日	14:00-15:00		JASSO主催、オンライン

<他機関との連携活動>

独立行政法人国際協力機構四国センターとの連携協力推進に関する覚書を締結

2021年4月21日に独立行政法人国際協力機構四国センター（JICA四国）と開発途上国への国際協力の実施及び国際協力に資する人材の育成を目的として連携協力推進に関する覚書の締結を行いました。覚書の署名は、寛善行学長とJICA四国小林秀弥所長との間で行われました。2016年に5年を期限として締結された連携協力推進に関する覚書が有効期限を迎えることに伴い、その間香川大学の学生のグローバル教育、留学生受け入れや日本人学生派遣においての指導・協力のほか、国際貢献として実施しているJICA草の根技術協力事業のカンボジアでの衛生教育改善事業や、タイでの周産期死亡改善事業、さらに短期・長期の研修員受け入れ事業など等の連携実績が積み上げられたことから、両者の連携協力の一層の強化を進め双方の組織及び関係者のみならず我が国及び途上国の人々に資することとなるよう協力して必要な努力を行うことが合意されました。今後は、「全インド医科大学からの研修員受入」、「観光振興分野」及び「遠隔医療分野」での課題別研修が予定されています。



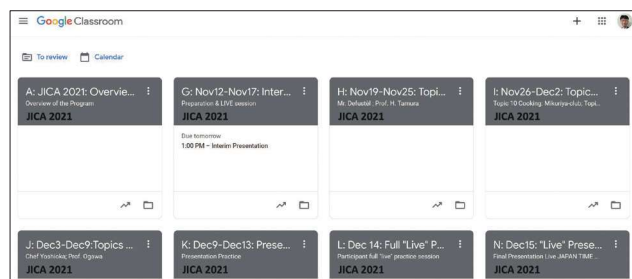
JICA日系社会研修員受入事業

2021年10月15日（金）から12月16日（木）までの2か月間、2021年度日系社会研修員受入事業「小規模食品ビジネスの開発（食の安全：調理と管理・製品開発と販売促進・ビジネスモデル開発のためのバックカスティング）」を実施しています。この事業は、本学農学部のピーター・ルーツ准教授が代表となり、インターナショナルオフィスの高水と連携して実施されています。ブラジルから5名、コロンビアから1名の日系社会研修員を受け入れ、小規模食品ビジネスの開発に必要な知識と技能を提供しています。後半には昨年度の研修員のうち1名も参加し、計7名となりました。2019年度から始めて3回目の実施となります。



ビデオ講義

昨年度に引き続き、今年度もコロナウイルス感染症の影響により全てオンラインでの実施となりましたが、JICA四国との連携を強化し、コーディネーターも配置されました。Google Classroomを主なプラットフォームとして、週1回のライブセッションや中間・最終発表はZoomを使用して学びの機会を提供します。本学農学部および国際ナショナルオフィスの教員が提供するビジネスや食品安全等に関するビデオ講義の他、学内外における各種実習・見学、起業家の講義もビデオ講義で提供され、研修員はビデオとディスカッションを通して知識を習得します。特に今年度は調理等の実用的な部分を強化しました。最終課題は研修終了後のビジネス展開の計画立案で、最終週には発表、ディスカッション、修了式がZoomを用いて全てライブで実施されます。



実施予定の一部内容

全学共通科目「プロジェクトさめき」における連携

留学生と日本人学生との共修を目的に開設した「プロジェクトさめき」では、2019年度までは香川県内における様々な社会問題を扱ってきましたが、2020年度よりSDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に焦点を当て、瀬戸内海の環境保全について学んでいます。

今年度は第1クォーターと第3クォーターに開講、昨年度に引き続き両クォーター共に香川県環境森林部環境管理課里海グループとNPO法人アーキペラゴのご協力を得ました。

第1クォーターでは県とアーキペラゴからの講師にご講義いただきました。年度当初に計画していた県内海岸部での実地研修は、実施予定時期の県内コロナ感染状況により昨年度に引き続き断念しましたが、第3クォーターでは状況が改善し、本授業としては初めて実地研修も実施することができました。アーキペラゴ講師のご指導のもと、高松市内の芝山海岸にて世界共通の「国際海岸クリーンアップ (ICC)」に基づく海ごみ分類方法を学んだ後、グループに分かれて実際に海岸清掃を行い、拾い集めたごみの特徴や環境への影響等について、実物を見ながら学修を深めました。受講生は、講義や実地研修を通して学んだことをもとに、グループ発表に向けて鋭意準備中です。発表会では、昨年度に引き続き、原直行教授（経済学部／10月より副学長・国際ナショナルオフィス長）と長谷川修一特任教授・名誉教授（四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長、危機管理先端教育研究センター長）にご講評・ご指導いただく予定にしております。

コロナ禍で入国・在籍留学生数が少なく、本授業受講生も少なかったのは残念ですが、本授業終了後も、別項に記載の新規入国留学生を迎え、ビーチクリーン活動その他関連の取り組みは続けていく予定です。



ビーチクリーン活動

昨年度より、留学生と日本人学生を引率して、ビーチクリーン活動を開始しました。留学生センター教員が担当している「プロジェクトさめき」の授業におけるSDGs14（海の豊かさを守ろう）というコンセプトに基づいて、地域貢献をすると共に環境問題について学生たちに学習をしてもらうという目的です。

今年度は、本稿執筆時点までに、授業外でのビーチクリーン活動は3回実施しました。実施場所は全て庵治半島のビーチです。各回の学生参加者人数はそれぞれ10名、7名、10名でした。本稿での報告には間に合いませんが、11月末には、本学の協定校である国立嘉義大学（台湾）とチェンマイ大学（タイ）との合同オンライン環境クリーンアップを実施する予定であり、2022年1月には、中島記念国際交流財団の助成により、男木島でのビーチクリーン活動を計画しています。



<外国人留学生対象行事>

オンラインホームビジット

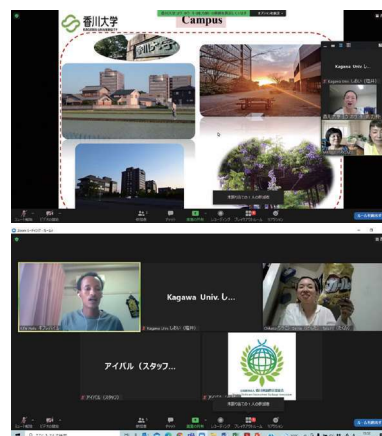
本学が事務局を務める香川県留学生等国際交流連絡協議会では、県内の留学生と地域社会の方々との交流を目的として、2012年度より年2回、ホームビジット事業を実施しています。宿泊を伴うホームステイとは異なり、1日だけのビジットではありますが、毎回、マッチングされた留学生とホストファミリーとは仲良く楽しく交流や理解を深めています。

昨年2020年度は、コロナ禍により2回とも本事業を中止しましたが、留学生・ホストファミリー双方から可能な範囲で交流したいという声もあがっていたことから、今年度は初の試みとしてオンライン上での交流を行いました。

留学生は本学および穴吹ビジネスカレッジから申し込みがあり、出身はエチオピア・中国・バングラデシュ・セネガルの3ヶ国でした。8月21日(土)、8名の留学生と8家庭が参加し、本学教職員4名、アイパル職員3名が運営やサポートをする形で、Zoomを用いて今年度1回目のオンラインホームビジットを実施しました。事前に留学生、ホストファミリーそれぞれに簡単なガイダンスを行った後、全員がオンラインで顔を合わせて開会、その後、学生1人と1家庭という8つのペアに分かれ、ブレイクアウトルーム機能を用いて交流。短い休憩をはさみ、後半はペアを変えて、新しい相手と交流しました。留学生

は事前に用意していた自己紹介文や国の様子分かる写真・実物なども使い、日本語や英語での会話がはずんでいました。

今後に向けた改善点はもちろんありましたが、予想以上に盛り上がり時間が足りないくらいだったのは嬉しいことでした。今後のコロナの状況が読めないため、今年度2回目も年明けにオンライン実施を予定しています。物理的な制約がある中でも、また、そうであるからこそなおさら、可能な人とのつながりを大切に交流事業を進めていけたらと考えています。



交流中の様子



閉会時の集合写真

国費留学生の受け入れ

新型コロナウイルス感染症の影響で、留学生が渡日できない状況が続いていましたが、10月に6名の国費留学生が渡日することができ、14日間の観察期間を経て、10月末から11月初めにかけて香川県に入ることができました。学生たちはブラジル、メキシコ及び韓国からの日本語・日本文化研修留学生と、ブルンジ及びルワンダからの大学院に進学予定の予備教育を受ける留学生で、現在はそれぞれ日本語、日本事情等の授業に参加中です。さらに、本稿執筆時には間に合いませんでしたが、11月中にもう1名、バングラデシュからの予備教育の学生が本学に入学しました。以下は6名の学生からのメッセージです。



ムン ギョンリム(韓国)

今回、香川大学に1年間留学プログラムに参加して韓国から日本語と日本文化について勉強しにきました。日本に来たことがなかったせいで心配しましたが、チューターさんと先生方のおかげで、もう日本の生活に慣れてきました。まだここに来て一ヶ月も経っていませんが、香川大学の授業やバスツアーなどのイベントに参加して日本について少しずつ分かっていく時間を楽しんでいます。また、これからの時間にある学びの機会に期待しています。貴重な機会を得た分、日本に居られる時間を充分に生かしてたくさん学んで帰りたいです。



Zina Anne(ブルンジ)

My name is Zina Anne. I am from Burundi. I joined Kagawa University in October 2021. I will be in the faculty of economics. I am enjoying studying at Kagawa University the students and staffs are so welcoming. I hope to acquire knowledge and gain understanding intellectually, also learn much about different cultures especially Japanese culture during my stay here in Japan.



Munyeshyaka Emmanuel(ルワンダ)

My name is MUNYESHYAKA EMMANUEL. I'm from Rwanda. I was aspired to become an international research student at Kagawa University after passing the MEXT Scholarship first screening. I was fascinated by the department of Molecular Microbiology and the research



projects conducted in this department at Kagawa University. I am ready to join this department of Molecular Microbiology, Faculty of Medicine (Basic) after learning the fundamental basic Japanese a half year at Saiwai-cho campus. Kagawa University, is significant for my future career as it will lead me to continuing my research work having broader exposure in the Medical field especially as a Molecular Microbiologist. Since, my goals has always been to become a medical researcher by guidance of excellent university and good researcher professors in the highly-reputed country.



Alejandro Satoshi Kimura (メキシコ)

My name is Alejandro Satoshi Kimura. I come from Mexico and I am in Kagawa University studying to improve my Japanese. My favorite Japanese food is Kareraisu and mabo tofu. I like sports a lot and I plan to try a lot of udon from Kagawa because I heard it is a Kagawa specialty dish.



Kumata Heldher Teruo (ブラジル)

My name is Kumata Heldher, and I'm a graduating student in business administration from Brazil. I came here to Kagawa University to improve my Japanese language skills and meet new people. This is my first experience as an international student, and I'm really enjoying my stay here in Kagawa Prefecture. I hope all of you can have the opportunity to study abroad and widen your point of view of this world!



Ono De Almeida Cajo Yudji (ブラジル)

My name is Yudji and I study Biology in Brazil, so, since my arrival here in Takamatsu, I was amazed by the view and the natural spots around (I think it is the perfect size: not too big neither too small). People here is very nice and I am really excited to enjoy my Japanese Language and Culture scholarship!



<地域との交流>

三木高校生インターンシップの受入れ

三木高校総合学科2年生4名を受け入れて2021年度のインターンシップを9月18日に開始しました。月一回程度の活動を継続して実施しており、11月までに、留学生会館、グローバル・カフェ、医学部においてそれぞれの業務について学ぶとともに、留学生から直接話を聞くなどしました。また、ムスリム文化について考えるセッションを設け、大学生協の西山部長からは香川大学生協食堂のハラール対応について講義いただきました。さらにグローバル・カフェ主催のオンラインイベントを視聴し、コロナ禍で普及した活動形態を実体験してもらっています。インターンシップは来年3月の成果報告会まで続きます。



医学部で留学生と対話



大学生協食堂の仕事について学ぶ



留学生会館で留学生の出身国について学ぶ

留学生への支援 コロナ禍における食料支援(野菜提供)

有限会社渡辺エンタープライズ様※(野菜、果物の卸売業を経営)から、昨年度に引き続き、月に1回のペースで野菜と果物のご寄附をいただいています。

コロナ禍の影響を受け、アルバイト収入や母国からの仕送りが減少している留学生からは、「大変な時期に支援を頂き本当にうれしいです。食費の足しになります」と毎回感謝の声が届いています。



7月9日(金)の様子▶

かがわ国際フェスタ2021への出展

香川県、高松市、公益財団法人香川県国際交流協会、公益財団法人高松市国際交流協会及び独立行政法人国際協力機構四国センターが共同で開催した「かがわ国際フェスタ2021」に香川県留学生等国際交流連絡協議会として県内の国際交流団体と共同で参加しました。下記のポスターや、過去の外国人留学生等作文コンテスト作品集などを、2021年10月23日(土)～10月28日(木)のアイパル香川1階アイパルプラザにて展示しました。

この「かがわ国際フェスタ」は①県内在住の外国人住民と日本人住民の交流の提供、②県民の国際交流・国際協力・多文化共生に対する理解の増進と国際感覚の涵養、③国際交流・国際協力の担い手である県内の団体や関係機関相互の連携強化、以上の3点を目的として開催されています。インターナショナルオフィスとして、今後も積極的に参加し、県内の国際交流に貢献します。



インターナショナルオフィスからのお知らせ

新任教員の紹介



Andrew Caldwell (グローバル・カフェ コーディネーター)

Name: Andrew Caldwell
Hometown: Vancouver, BC, Canada
I hope to make the Global Cafe a great place where students can connect, learn, and collaborate with others.

尾上 能久 (JICAからの客員教授)

海外協力隊、国際協力、開発途上国に関すること、その他なんでも構いません。お気軽に声掛けください。

チュー・フイアン

Hello, I am Chew Hui Yan. I was born and raised in Malaysia, a multiethnic country where multi-languages are used. I joined International Office as an Adjunct Instructor since May this year. Besides teaching a few courses, such as Malay, Learn English with Movies and Photos Sharing Session at the Global Café, I am also in charge of the study abroad matter. I look forward to supporting you.

こんにちは。多言語が使われ、多民族国家であるマレーシアで生まれ育ちましたチュー・フイアンと申します。今年5月から非常勤教員としてインターナショナルオフィスで働いています。グローバル・カフェでいくつかのコースを教えるほか、海外派遣も担当しています。どうぞよろしくお願いいたします。

香川大学
インターナショナルオフィスニュース
第25号 2021年(令和3年)12月20日

香川大学インターナショナルオフィス
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel : 087-832-1318 Fax : 087-832-1192
E-mail : soryucet@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL : <https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>
留学生センターfacebook
URL : <https://www.facebook.com/KUISC>
グローバル・カフェfacebook
URL : <https://www.facebook.com/GlobalCafeKagawaUniv>